

大願寺

大願寺（亀居山放光院大願寺としても知られる）は、音楽・知恵・富の女神「弁財天」を奉る真言仏教の寺です。巖島神社の出口のすぐ脇にあるこの寺は、ひと目見ただけでは神社自体の一部のように見えるかもしれませんが。事実、この2つの場所は少なくとも800年前に遡る豊かな歴史を共有しています。

何世紀も前、大願寺の境内は現在のものよりもずっと大きく、巖島神社自体や島の5重の仏塔もその中にありました。大願寺は巖島神社の管理センターの役割を果たしていたのです。この寺が神社の維持管理を担当し、巖島の有名な鳥居を再建するために全国から寄付を集めることさえしました。巖島神社を訪れる巡礼者は必ず大願寺にも立ち寄ったものです。当時の多くの神道神社や仏教寺院と同様に、この2つの寺社は融合した関係性を持ち、互いの伝統から選り出された神仏や儀式が取り込まれていたのです。

しかし明治時代（1868～1912年）に政府が神道神社と仏教寺院を完全に切り離すように命じたことで、この2つの寺社の密接なつながりは終わりました。この布令の最も具体的な影響の1つが、それまでは神道の場所に祀られていた仏像を排除しなければならなかったことでした。宮島中の多くの仏像が大願寺に運び込まれました。残念なことに、この政策は寺の大きさや影響力の大幅な低下も引き起こしました。

今日の大願寺の主要な3つの建物は、山門、本堂、および最近再建された護摩堂です。それらが、かつては巖島神社へ続く庭だった場所を取り囲んでいます。古い庭の真ん中には、日本の初代首相・伊藤博文（1841～1909年）が植えた、9つに枝分かかれた幹を持つ大きな松の木があります。毎年6月17日には寺のお祭りが開かれます。